

釜石(かまいし)の奇跡(きせき)

～3.11東日本大震災と釜石東中学校・鵜住居小学校

(ひがしにほんだいしんさい) (かまいしひがしちゅうがっこう) (うのすまいしょうがっこう)

児童生徒より 学ぶ～

(じどうせいと)

(まな)



防災指導者(ぼうさいしどうしゃ) 群馬大学大学院(ぐんまだいがくだいがくいん) 片田教授(かただきょうじゅ)の

講演資料(こうえんしりょう)と出版された、教育書(しゅつぱんきょういしよ)により制作(せいさく)したものです

ことばと一部内容(いちぶないよう)につきまして被災後(ひさいご)に被災地(ひさいち)の足跡(あしあと)を片田

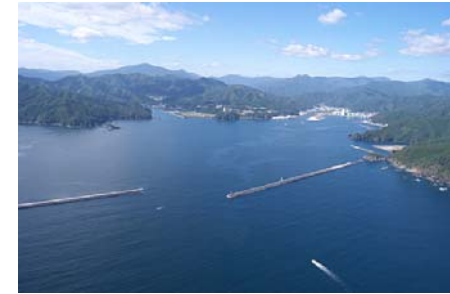
教授と歩(ある)かれた産経新聞社(さんけいしんぶんしゃ)のご支援(しえん)と、ご協力(きょうりょく)で資料(しり

ょう)を一部(いちぶ)使(つか)わせていただきました



この海(うみ)の景色(けしき)は、どこかで見た事(こと)が、ありませんか？

この海(うみ)はどこでしょう？



3月11日の東日本大震災(ひがしにほんだいしんさい)で大津波(おおつなみ)に襲(おそ)われた

岩手県釜石市(いわてけんかまいし)を防波堤(ぼうはてい)の沖(おき)から

撮影(さつえい)した画面(がめん)です

見る人の殆ど(ほとんど)が下田だ！と言(い)います

前(まえ)に広がる海 後ろ(うしろ)に迫る(せまる)山 リアス式海岸(かいがん)の東北・三陸地方

(とうほく・さんりくちほう)と伊豆半島(いずはんとう)は

地形(ちけい)が大変(たいへん)

似(に)ています



釜石港

下田港



釜石市(かまいし)は今から50年前(まえ)には9万人の人達(ひとたち)が住(す)んでいました。

明治時代(めいじじだい)に日本で最初(さいしょ)に製鉄所(せいてつじょ)が出来(でき)た

町(まち)です。 今(いま)は4万人の人口で 小学生(しょうがくせい)1927人

中学生(ちゅうがくせい)が999人の町です

伊豆半島(いずはんとう)ばかりでなく 地方(ちほう)はどこも人口が減(へ)っています



3月11日午後(ごご)2時(じ)46分(ふん) 大きな地震(じしん)が発生(はっせい)しました
そしてこの町に大きな津波(つなみ)が襲い(おそい)かかりました
ここに釜石(かまいし)の奇跡(きせき)といわれる出来事(できごと)があったのです
小学生、中学生 約(やく)3,000人の児童生徒(じどうせいと)
その殆ど(ほとんど)が避難(ひなん)して無事(ぶじ)だったのです



群馬大学(ぐんまだいがく)の片田教授(かただきょうじゅ)は
誰(だれ)も家族(かぞく)が死(し)んでは悲(かな)しいと言(い)って
10 年計画(じゅうねんけいかく)で 災害(さいがい)にあったらどうしよう と
教(おし)え続(つづ)けて下(くだ)さいました
教育期間(きょういくきかん)8年の実行途中(じっこうとちゅう)で
釜石(かまいし)は津波(つなみ)に会(あ)いました
釜石全部(かまいしぜんぶ)では1100人の人が亡(な)くなったり行方不明(ゆくえふめい)になりました
でも 子供達(こどもたち)が生(い)き残(のこ)った釜石には未来(みらい)がある
次の津波では亡くなる人がゼロを目指(めざ)す
と言っています



片田教授は外国(がいこく)から 日本中(にほんじゅう)からお願い(ねが)いされて指導(しどう)に大変(たいへん)
お忙(いそが)しい毎日(まいにち)を
送(おく)られています
私たちは先生(せんせい)の教(おし)えと その教えを しっかり実行(じっこう)した人たちの事(こと)を
紙芝居(かみしばい)に まとめて
皆(みな)で 出来(でき)ることを一つづつきちんと学(まな)んで 東海地震(とうかいじしん)に
備(そな)えましょう



釜石の奇跡といわれる 釜石東中学校(かまいしひがしちゅうがっこう)と鵜住居小学校(うのすまいしょうがっこう)
の場所(ばしょ)から

みんながどうしたか 教授(きょうじゅ)の教(おし)えをどう守(まも)ったのでしょうか



二つの学校(がっこう)はハザードマップと言(い)われる災害(さいがい)を防(ふせ)ぐ為(ため)の

危険予想地図(きけんよそうちず)からは外(はず)れたところにあります

しかし 津波が過(す)ぎた後(あと) 校舎(こうしゃ)の3階(さんがい)には軽自動車(けいじどうしゃ)が突(つ)き
刺(さ)さったままになっていて

10m 以上(いじょう)の大(おお)きな津波が押(お)し寄(よ)せた事が判(わか)りました

(次ページ分)



釜石東中学校



鵜住居小学校



地震が起きたとき 東中学のサッカー部はグラウンドで練習中(れんしゅうちゅう)でした

揺(ゆ)れが収(おさ)まるかどうかと言うときに 津波が来(く)るぞー と大声(おおごえ)で叫(さけ)びました
となりの小学校では校長先生(こうちょうせんせい)はお仕事(しごと)で出掛(でか)けていましたので村上洋
子副(ふく)校長はじめとして先生方で校舎(こうしゃ)3 階に避難誘導(ひなんゆうどう)をしました

大きい揺れで有(あ)ったので津波が来るぞー と放送(ほうそう)で指示(しじ)しようとしたが 停電(ていでん)で使(つか)えなかった。と言っています

村上副校長が校庭(こうてい)を見(み)ると地割(じわれ)れがあり 声(こえ)をかけようとしたが すでに
サッカー部員(ぶいん)は「津波が来るぞー」と叫んで走(はし)り出(だ)していました

他(ほか)の生徒も校庭に集(あつ)まり始(はじ)めて 先生の指示で先発(せんぱつ)の避難者(ひなんしゃ)
に続(つづ)きます。中学生の避難を見て 3 階に避難していた小学生も避難の列に加わりました
(片田教授は率先避難者(そつせんひなんしゃ)になること避難が避難に繋(つな)がると教(おし)えています)



一時(いちじ)避難場所になっていた「ございしょの里(さと)」に着(つ)いて全員(ぜんいん)居(い)る事(こと)が確(たし)かめられました。避難所までは津波は来ないと思(おも)っていると「裏山(うらやま)が崩(くず)れてる」「余震(よしん)が危(あぶ)ない」と生徒が騒(さわ)ぎ出(だ)しました泣(な)き出す中学生も居ましたが「あなた方がしっかりしないとダメ」気(き)を取(と)り直(なお)して皆(みな)で更(さら)に後(うし)ろの介護施設(かいごしせつ)を目指(めざ)す事になりました。もうこの時には一番(いちばん)後(うし)ろを行(い)く村上副校長は学校のほうから「ドーン ドーン」という今まで聞(き)いた事も無(な)いような音(おと)を聞いてこのまま足(あし)を止(と)めると危(あぶ)ないと全員走り出して逃(に)げました



もっと高台(たかだい)にある石材店(せきざいてん)まで走り続けました

学校から「ごさいしょの里」まで 5～600メートル そこから介護施設(かいごしせつ)まで300メートル

更(さら)に石材店(せきざいてん)までは300メートル

最後(さいご)は二手(ふたて)に分(わ)かれて石材店に全員(ぜんいん)無事に着(つ)きました

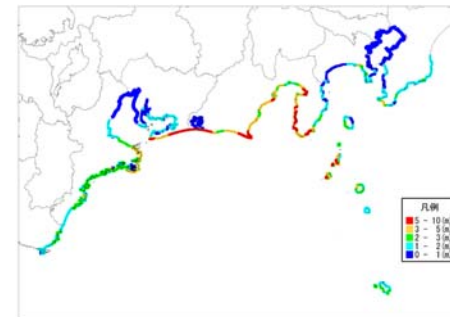


なぜ こうしたことが出来(でき)たのでしょうか

片田教授(かただきようじゅ)からの 教えと 実行(じっこう)した事が いくつかあります

片田教授の取り組み

1. ハザードマップ
2. 避難札
3. 率先者
4. 津波てんでんこ



想定される海岸における津波高さの分布
(想定及び図は内閣府による。)

釜石には世界(せかい)で一番深(ふか)いところから立(た)ち上(あ)がっている防波堤(ぼうはてい)がありました

東中学(ひがしちゅうがく)と鵜住居小(うのすまいしょうがっこう)は津波避難区域(つなみひなんくいき)から、外(は)ず)れていました

想定(そうてい) 予想(よそう)を信(しん)じるな 絶対(ぜったい)安全(あんぜん)はない
用心(ようじん)する事

その為(ため)に訓練(くんれん)をしておく事だったのです



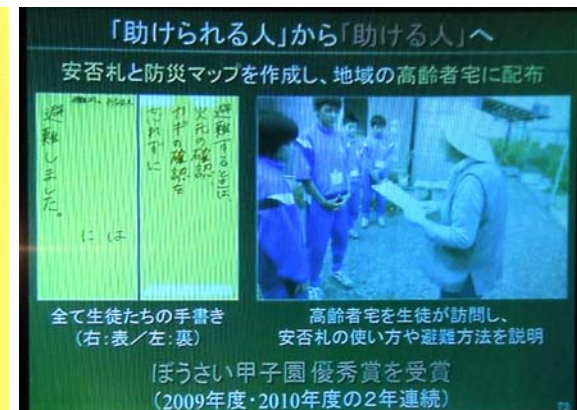
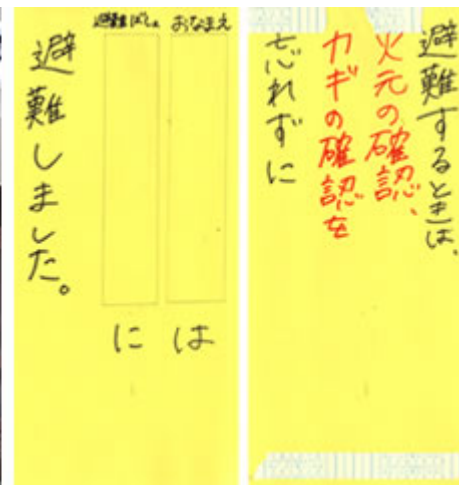
想定を信じない



お家(うち)には出(で)るとき 避難札(ひなんふだ)を付(つ)けて 玄関(げんかん)にぶら下(さ)げておきます

中学生が作った避難カードに書(か)いておきました

近所(きんじょ)の人が爺(じい)ちゃんや婆(ばあ)ちゃんを探(さが)す時間がかかりません



中学生は助(たす)けられるのではなく 助ける人になろう

どこへ どういう隊列(たいれつ)で 声(こえ)をかけながら 先頭(せんとう)切(き)って動(うご)きましょう

リヤカーを引(ひ)いて 年寄(としよ)りまで運(はこ)ぶ訓練(くんれん)をしてきました



津波てんでんこ 勝手(かって)に逃(に)げろ

津波は遠(とお)くの地震だと大きい波(なみ)となります さあ勝手に逃げよう ではありません

お母(かあ)ちゃんも逃げるから、ちゃんと逃げるだよ

あとで必(かなら)ず、迎(むか)えに、行(い)くから

そして自分(じぶん)は 僕(ぼく)は必(かなら)ず、皆(みな)と逃げるから安心(あんしん)していてね

決(き)めておく事(こと)です

津波てんでんこ

勝手に逃げようではありません。

お母ちゃんも逃げるから、
ちゃんと逃げるだよ

皆と逃げるから安心してね



日頃から話し決めておくことです。



迎えにいったことで津波に襲(おそ)われて途中(とちゅう)でなくなった方(かた)も沢山(たくさん)います

避難(ひなん)は 計画(けいかく)と方法(ほうほう)をはっきり 先生(せんせい)や家族(かぞく)や地域(ちいき)の
人から教(おそ)わって決(き)めておきましょう

釜石と同じように 一番目(ばんめ) 二番目 三番目 です

自分の行(い)き先(さき)も 避難場所(ひなんばしょ)の確認(かくにん)をしましょう

釜石でも6年生9人が岸壁(がんぺき)へ釣(つ)りに行っていて 地震に会いました

何処(どこ)に避難する 市営(しえい)ビルか高台(たかだい)の避難道路(ひなんどうろ)か

避難道路に決(き)め、避難して

女子(じょし)7人 男子(だんし)2人は 助かりました



私達(わたしたち)の町(まち)でも 160年(ねん)前(まえ) 大地震(おおじしん)と大津波(おおつなみ)に襲(おそ)われています

安政大地震(あんせいおおじしん)です

地震(じしん)が起(お)きてから早(はや)いところでは数分(すうぶん)から1時間(じかん)くらいの間(あいだ)に
来(き)た津波(つなみ)は下田の殆(ほとん)どの家(いえ)を

流(なが)してしまいました(948軒(けん)のうち927軒が流(なが)されたそうです)

この地震では122人が亡(な)くなっているそうです



その時(とき) 港(みなと)に留(と)まっていた ロシアの軍艦(ぐんかん)ディアナ号(ごう)は 津波と後(あと)の暴風(ぼうふう)で壊(こわ)れて、沈没(ちんぼつ)しました

富士(ふじ)の人達は全員(ぜんいん)を助(たす)けて着(き)る物(もの)や食べ物(たべもの)を持(も)ち寄(よ)り助けました。

国(くに)に帰(かえ)れなくなった人達のために、伊豆(いず)の大工(だいく)さんたちはロシアの方達(かたたち)と皆(みな)で船(ふね)を作(つく)って帰国(きこく)する事(こと)ができました

これは 日本(にほん)が明治維新(めいじいしん)から開国(かいこく)して外国(がいこく)に出掛(でか)ける元(もと)になる造船技術(ぞうせんぎきゅつ)の、始(はじ)まりとなっています

釜石の製鉄(せいてつ)、鉄(てつ)を工場(こうじょう)で作(つく)り始(はじ)めたこと 伊豆は船を作った事
ともに 昔(むかし)の人達が 私達のふるさとでは
頑張(がんば)った 歴史(れきし)があります



怖(こわ)がってはいけない 私たちは怖(こわ)がってはいけない

自然(しぜん)の力は 計(はか)り知(し)れないものがあります

日頃(ひごろ) 先生や大人(おとな)の人達(ひとたち)から学(まな)んで

釜石の生徒達(せいとたち)に負(ま)けないように訓練(くんれん)して

東北(とうほく)で命(いのち)をなくした人や大きな被害(ひがい)を受(う)けた人達(ひとたち)の

励(はげ)ましの為(ため)にも ひとつつつ 勉強(べんきょう)していきましょう

